

# 104-122

## 問題文

少子・高齢化に関する我が国の人口指標の数値の大小関係について、正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 平成28年の合計特殊出生率 > 平成28年の総再生産率
2. 平成28年の健康寿命 > 平成28年の0歳平均余命
3. 平成28年の年少人口指数 > 平成28年の老年人口指数
4. 昭和60年の平均初婚年齢 > 平成28年の平均初婚年齢
5. 平成28年の粗死亡率 > 昭和60年の粗死亡率

---

## 解答

1, 5

## 解説

選択肢 1 は妥当な記述です。

合計特殊出生率とは1 人の女性が、一生に産む「子供の数の平均」のことです。出産可能な年齢は、15 歳から 49 歳と規定されます。総再生産率とは、1人の女性が一生の間に産む「平均女兒数」です。

選択肢 2 ですが

今生まれる 0 歳時の余命の方が、今の健康寿命（介護を受けたり寝たきりになったりせず日常生活を送れる期間）よりは大きいと考えられます。よって、選択肢 2 は誤りです。

選択肢 3 ですが

年少人口よりも、老年人口の方が多いと考えられます。よって、選択肢 3 は誤りです。

選択肢 4 ですが

晩婚化が進んでおり、平均初婚年齢は H28 年の方が高いと考えられます。よって、選択肢 4 は誤りです。

選択肢 5 は妥当な記述です。

粗死亡率とは「1 年間の死亡数を、その年の人口で割った値」です。通常、人口 1000 に対する数値で表します。

以上より、正解は 1,5 です。